

## 第2節 人びとの生活のあるまち／人びとの生活と沿線

# 人びとの意識

街なみがきれいは根岸線、地域連帯では市営地下鉄線  
沿線ごとに異なる人びとの意識

各沿線に住む人びとの意識は、どのようなものであろうか。今回行った市民の日常生活に関する調査から、いくつかひろってみよう。

### 居住年数と年齢構成

現住所に住んで10年以下の人の割合は、東京便利派の田園都市線が57%と一番高く、東横線、根岸線、横浜線の順になっている。いっぽう、21年以上の居住者では、古くから市街化の進んだ市営地下鉄線、京浜急行線の割合が高い。なお、京浜東北線については21年以上の人が多いいっぽう、10年以下の割合も高くなっている。

年齢別では、東京便利派の田園都市線、中間派の東横線、京浜東北線が、20代の割合が25%以上をしめ高い。いっぽう、21年以上の居住者の割合の高い地下鉄線、京浜急行線では、65歳以上の高齢者の割合が20%をこえている。横浜線は30代、根岸線は40～64歳が多くなっている。居住地に対する印象

「自然環境がよい」では、田園都市線、東横線、相鉄線、根岸線での評価が高く、京浜東北線、

横浜線、市営地下鉄線では低い。一般に緑や斜面緑地がのこり、丘の部分を走っている路線の評価が高く、古くから開発された海沿いの市街地や川沿いに走る路線が低いようである。

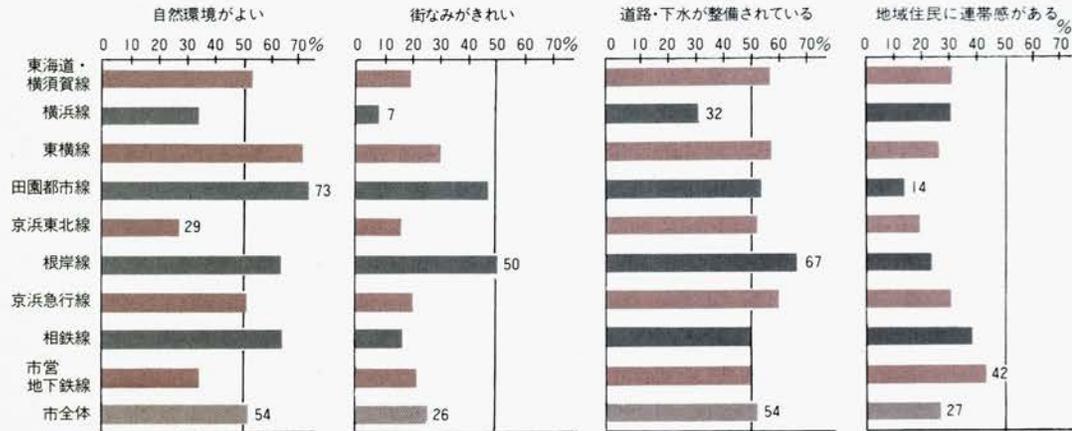
「街なみがきれい」では、根岸線、田園都市線が高くくなっている。これらは都市基盤の整った大規模開発地で、逆に横浜線、京浜東北線といった中小規模開発の多い沿線での評価は低くなっている。

「道路・下水が整備されている」では、根岸線、京浜急行線の評価が高く、都市基盤整備の遅れている横浜線の評価が低くなっている。

「地域住民に連帯感がある」では、沿線の歴史が古く住民の定住化の進んでいる市営地下鉄線、相鉄線の割合が多く、10年以下の居住者の多い田園都市線、京浜東北線、根岸線が少ない。

「文化施設が豊富」では、全体的に評価が低い(15%)が、特に横浜線(6%)、相鉄線(9%)、田園都市線(12%)が低い割合をしめている。市全体では、「自然環境が良い」と「道路・下

### ■居住地に対する印象



## おもしろデータ

バス・鉄道・地下鉄の便が良くなってきたという人は全体で.....56%

市営地下鉄線 79% : 田園都市線 34%

通勤・通学・買い物などの道路や歩道の整備が良くなってきた54%

市営地下鉄線 65% : 田園都市線 43%

下水道の整備が良くなってきた.....54%

京浜急行線 65% : 京浜東北線 43%

老人ホーム建設など高齢者対策に力を入れてほしい67%

相鉄線 74% : 田園都市線 56%

空気の汚れや騒音など公害防止に力を入れてほしい64%

市営地下鉄線 77% : 京浜東北線 57%

地震など災害対策に力を入れてほしい.....61%

市営地下鉄線 68% : 田園都市線 54%

横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

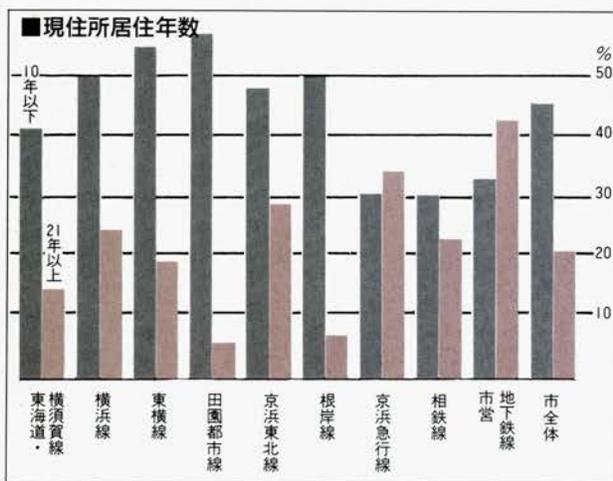
水が整備されている」の評価が50%をこえ、いっぽう「文化施設が豊富」が15%と低くなっている。

また、沿線別では、根岸線の評価が「地域の連帯感」をのぞいて高くなっており、続いて京浜急行線、東横線の順になっている。

行政への評価と要望

次に、行政への評価と要望について、沿線の人びとの意識をみてみよう。

評価が高く要望が低くなっているのは、京浜東北線、根岸線、京浜急行線、市営地下鉄線の各沿線である。これらの沿線では比較的古くか



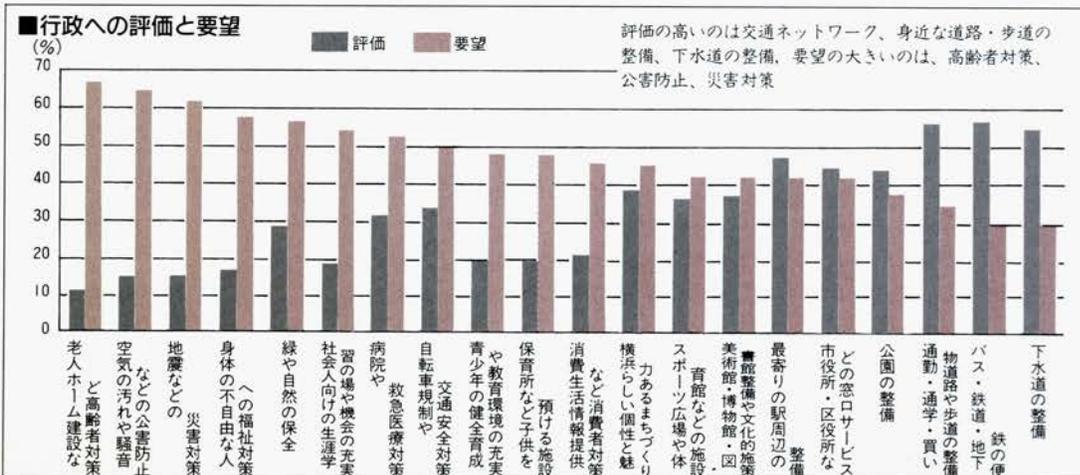
横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)

ら開発されたところが多く、都市基盤や市民利用施設の整備が進んでいるためと考えられる。

相鉄線は評価が高いが、要望も大きい。また東海道・横須賀線、横浜線、東横線については評価が低く、要望が大きい。

なお、田園都市線では評価が低く、要望も小さい。

評価と要望の内容をみると、評価では「バス、鉄道、地下鉄の便」と「下水道の整備」が、要望では「老人ホーム建設など高齢者対策」や「空気の汚れや騒音などの公害防止対策」の割合が高い。



評価の高いのは交通ネットワーク、身近な道路・歩道の整備、下水道の整備、要望の大きいのは、高齢者対策、公害防止、災害対策

横浜市「市民の日常生活に関する調査」(昭和62年度)